【資料Ｂ】空気中の水蒸気と温度

①水を皿などに入れておくと，知らない間に水が減ってしまうことがあります。これは，常温でも水が**少しずつ蒸発して気体の水蒸気になり，空気中へ出て行くためです。海や川などにある水は少しずつ蒸発し「水蒸気」となって空気中に溶け込み見えなくなります。**目に見えませんが，**私たちのまわりの空気にはいつもある程度の水蒸気が含まれています。**

②空気中に含まれる水蒸気の限界量は温度によって決まっています。

**空気が含むことができる水蒸気の限界量を「飽和水蒸気量」**といいます。「飽和」というのは，「限界状態」を意味します。**空気は温度が下がると，少しの水蒸気しか含むことができません。**ですから，**含まれなくなった水蒸気が水滴（すいてき）になって出てくる**のです。これを「凝結」といいます。

限界を超えた部分の水蒸気が凝結して、

水滴になり、

目に見えるようになる

温度が下がると

③冷たい飲み物を飲むとき，コップの表面に「水滴」がつくことがあります。また，冬場は窓の内側がくもることがあります。この**くもりの正体も，空気中に含まれていた「水蒸気」が冷えて「水滴」になったもの**です。温度がもっと下がると，より多くの水蒸気が水滴になって出てきます。

水蒸気 → 空気中を水分子がバラバラに飛び回る → 見え\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_

こまかな水滴 → 水分子が集まって液体にもどる → 見え\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_

問：ピストンを引いたとき，フラスコの中に見える「白いくもり」の正体は何でしょうか。「白いくもり」ができたということは，温度はどのように変化したのでしょうか。

「白いくもり」の正体は、　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　だろう。

この時、温度は、　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　だろう。